

きらめく湖水へ水飛沫をあげてスプラッシュイン！
感動と興奮の「びわ湖ダックツアー」を運行。

長浜の新たな名物に
湖国初の水陸両用バスツアー

行業シーズン到来で賑わう長浜の黒壁スクエア。隣接する御旅所駐車場から、笑顔で手を振る満員の観光客を乗せた大型バスが走り出した。車体を彩る「びわ湖ダックツアー」のラッピング。DUKWの愛称で親しまれる水陸両用バスだ。

市街地を北上したあと、きらめくマザーレイクを右手に眺めながら湖岸道路を南下。観光スポットの長浜城や慶雲館の横を通過してわずか15分で長浜港へ。湖に向かって直進するバスは、プレジャーボート用タラップから滑るように湖面へダイブする。パシャと水飛沫があがったその瞬間、車内の乗客たちは一斉に叫ぶ。「スプラッシュイン！」。大きな歓声が上がると、拍手が湧きおこる。テーマパークのアトラクションさながらの興奮と感動を味わえる「びわ湖ダックツアー」。昨年3月に登場するや、またたく間に長浜の「新名物」になり、11月末までの9カ月で約2万4千人が搭乗。その約8割が岐阜県、愛知県など中京圏をはじめとする県外からの観光客だ。ダックツアーは、観光都市・長浜に大きな波及効果をもたらした。

このツアーを運行するのが株式会社ティアンドティ・コーポレーション。長浜の地域振興と縁が深い高橋金属株式会社のグループ企業だ。「黒壁の人気は堅調だが、観光客の周遊範囲をもっと広げられないかと考えていた。ヒントになったのは、海外で目にした水陸両用バスツアー。その非日常性は必ず人気を呼び、長浜の新たな魅力になる。長浜城や慶雲館などへ足を伸ばしてもらおう呼び水にもなるだろう。とにかく長浜の活性化をお手伝いしたかった」と川崎隆弘社長。



長浜港から琵琶湖へスプラッシュイン！大きな歓声上がる「びわ湖ダックツアー」



「びわ湖ダックツアー」の水陸両用バスが黒壁と琵琶湖をつなぎ、長浜観光の幅を広げる

運送事業で強みを発揮し
新たな事業の柱を模索

高橋金属の物流部門として1996年に設立された同社は、翌年には一般貨物運送事業に進出。近隣の取引先工場の製品等を運ぶことから始めた。岡山県に高橋金属の配送先が多かったため、同方面への荷物を混載することで安価な運送費の設定につながり、得意先をどんどん増やしていった。

ガソリン高騰で運送業界が苦境にあえいだ時期には、ドライバーの走行状況



大型10トントラック27台をそろえ、省エネ意識の高い物流事業

をつぶさにチェックできるデジタルタコメーターを導入し、走行スキルを磨く講習会を実施してドライバーの省エネ意識を高めるなど、細やかな経営努力を重ねて乗り越えた。今では保有する大型10トントラックが27台になるまでに成長。しかし、物流事業だけでは他社との違いを打ち出し、成長を続けることは難しいと考えたという。

観光バス事業を着実に伸ばし
旅行業へとステージアップ

第二の柱に育てようと、観光バス事業に進出したのが2001年。旅行会社が企画するツアーへの配車や学校のクラブ遠征のバス送迎からスタートしたが、最も気をつかったのはドライバーの教育だった。「一般運送と違って、観光バスでは乗務員の接客応対も「商品価値」。指名していただけるプロの観光ドライバー」を目指して、事業開始3カ月前から入念な教育に取り組んだ。そのおかげで、観

光バス事業は快調に走り出せた。

いまでは観光ドライバーが8人、2台の大型観光バスなど7台のバスを所有し、会社の売り上げの30%を占めるまでになった。昨年には、自社でオリジナルツアーを企画・運行できる旅行業免許も取得した。もちろん観光事業のステージアップが主な目的だが、これを機に川崎社長はずつと温めてきた夢の実現を図った。それがダックツアーだ。「以前から国内で唯一DUKWを所有する大阪の日本水陸両用車協会と交渉を進めてきた。『琵琶湖をクルージングするとは素晴らしい』と協会側も快く賛同し、当社が旅行事業者になったことで、満を持して、びわ湖ダックツアーは動き出した」。

「運送」「観光バス」に並ぶ
三つ目の柱に育てる

川崎社長が重視したのは水陸両用バスが運行されていない中京圏。新聞オリコミなどでアピールし、旅行会社をま

わつてタイアップを呼びかけた。ふたを開けると、予想を超える大盛況。「DUKWによるダックツアーは発祥地の大阪や東京、諏訪湖など全国数カ所でも実施されてきたが、滋賀では初お目見え。手軽に琵琶湖の魅力を感じることができる趣向だけに、全国の旅行業者も注目してくれた」。

一方で課題もはつきりした。平日の集客アップだ。克服の鍵はやはり旅行会社とのタイアップ。「今年は3月20日からの運航開始に先がけて、中部3県のバス会社が多くの旅行プランにダックツアーを組み込んでくれた。乗客数は確実に伸びると確信している」と今シーズンへの手応えを語る。

川崎社長の夢は、ダックツアーを観光事業に並ぶ、三つ目の柱に育てること。湖国観光の目玉として、長浜以外での水陸両用バスツアー運行も視野に入れるなど、今後の事業展開も見据えている。非日常性の楽しさは、観光客を呼び寄せる新たな起爆剤にもなりそうだ。

Profile

株式会社
ティアンドティ・コーポレーション
■本社/長浜市三ツ矢町10-1
■設立/1996年
■資本金/3,500万円
■従業員数50名
■事業内容/一般貨物運送事業、一般貸切旅客自動車運送事業、流通事業システム請負業、旅行業法に基づく旅行業その他
<http://www.takahasi-k.co.jp/tandtc.html>



代表取締役
川崎 隆弘氏
Voice

今年の「びわ湖ダックツアー」で重視するのは地域貢献。毎月15日を長浜市民限定の半額ツアーにしたり、月に2回、長浜市内の介護老人保健施設や障がい者施設の利用者さんを無料招待したりするなど、地元へ恩返ししていきます。

